



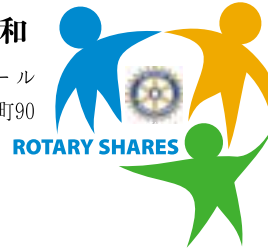
碧南ロータリークラブ週報

第2393回例会 平成20年1月16日(水)

● 会長 鈴木 敏弘 ● 幹事 石橋 嘉彦 ● 会場監督 新美 宗和 (SAA)

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 新美 惣英・長田 和徳・平岩 辰之・杉田 茂



2007~2008年度
 国際ロータリーのテーマ
**ロータリーは
 分かち合いの心**

● 斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

卓話講師 株式会社 ラブィ 代表取締役 澤田 直子氏
 助成金贈呈 あおみJセンター 所長 水野 啓章氏



鈴木敏弘会長

会 長 挨拶

正月気分も過ぎ、暖冬とは言え、これからが寒中に入ります。会員の皆様にはくれぐれもお身体に気を付けて頂きますよう、ご祈念申し上げます。

先週、第7回理事会に於いて、西三河分区金子ガバナー補佐様より、分区名変更についての議案がありまして審議をさせていただきました。

内容は豊田・岡崎地区の分区名が西三河中分区、当地区名は西三河分区、これを豊田、岡崎地区を西三河北分区、当地区を西三河南分区に変更してはと言う事と、今まで通りの二案が出され、碧南クラブの意見を出してほしいと言う事でありました。

当クラブとしては、金子ガバナー補佐様のご意見に準ずると言う事で決めさせていただきました。

又、1月12日(土)は(社)碧南青年会議所の定時総会に出席させて頂き、久しぶりにJ.Cソングを歌って、当時の思いに慕った気持ちになりました。そして若さ溢れる寸劇を見て、時代の違いを感じた次第です。

お正月には皆様、初詣でをなされたと存じます。先日、本を読んでいましたら、なぜ神社では「二礼二拍手一礼」なのかが載っていましたので、ご存じの方もあるかと存じますがご案内致します。拝礼の作法は「二礼二拍手一礼」が基本です。二回深くお辞儀をしてから、拍手を二度打ちます。なぜ二回なのかと言うと、陰と陽の二対を表すとともに、二と言う偶数を用いることで、神々ではなく人間が祈りに来たことを伝えるためだと言われています。

古来、神に捧げる食事はカシワの葉を編んだ食器を用い、神々に食事を捧げる合図として、二拍の手打ちを行いました。

そのように二は神に願いを捧げる合図であった為、二礼二拍手するようになったと言われます。因にお願いする時は、拍手のあとにするのが一般的なようですが、神様にお願い事などするのはなく「どうかお導き下さい」とへりくだるのが本来の参拝だと言われています。

正式な参拝の仕方は、ここで皆様に申し上げて良いかどうか分かりませんが、本にこれも出て

いましたので、ご披露申し上げます。

鳥居は一の鳥居、一番外側にある鳥居をくぐる前に軽く一礼をするのが、一番良いことだそうです。参道は、中央を歩かないようにしましょう。これは、皆さんもご存知だと思います。真中は神様の通り道。

境内に入ったら手水舎で清め、右手に杓、左手にかけて、次に右にかけ、そして左手で水を取り、口へ注ぐということだそうです。

清めをしたら心を落ち着かせて、神前へ行っていただき、本殿の前で軽く一礼をして、鈴があるところもございますが、鈴があれば鈴を鳴らして、お賽銭を入れます。

鈴を鳴らすのは「神様の愛」だそうです。そして、「二礼二拍手一礼の礼拝」この礼拝が済んだら本殿から立ち去る前にもう一度軽く一礼をしてこれで全ての参拝だそうです。

こんな話を申し上げて、今日の例会もよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

ポールハリスフェロー認証状伝達

堀田 益隆君



米山功労者感謝状授与

小笠原良治君 木村 徳雄君 竹下 豊君
倉内 裕君 新美 真司君 伊藤 正幸君

助成金贈呈

あおみJセンター所長 水野 啓章氏



石橋嘉彦幹事

幹事報告

- ・第7回理事会報告並びに他クラブの例会変更等は幹事報告書の通りです。
- ・本日 18:00 より大正館にて、クラブ協議会を開催します。

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数78名(内出席免除者11名の内出席者5名)出席者63名	
出席対象者 63/72名	出席率 87.50%
欠席者15名(病欠者1名)	前々回修正出席率 98.53%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

長田 徳雄君 長らく休み大変お世話になりました。

森田 英治君 1/9 碧南警察感謝状贈呈式に於いて愛知県警本部長からの感謝状を頂きました。自分の不注意で、左足首骨折をし、2ヶ月病欠いたし、ご迷惑をお掛けしました。本日より出席させていただいております。 よろしく。

加藤 良邦君 ①正月祭お陰様にて天候にも恵まれ無事に終える事ができました。有難うございました。

②1/5 商工会議所新年宴会に於いて恥ずかしながら黒田会頭より商品を頂きました。

③碧南警察署始め式に感謝状を頂きました。

青木 稔君 本年もよろしく。今月号の掲載短歌は実は奥田先生の診察室で詠んだものです。本日の解説が楽しみです。

- 鈴木 敏弘君 長田徳雄さんおめでとうございます。今後ともご指導下さい。
森田英治先生久しぶりの例会出席おめでとうございます。今後リハビリ大変と思いますがどうぞ、例会にご出席頂きご指導下さい。
- 竹中 義雄君 本日の卓話の講師を紹介させていただきます。
- 新美 宗和君 碧南J CのOB会長を1月から木村徳雄君に引き継いでもらいました。
有り難うございました。
- 新美 真司君 平成20年度出初め式無事終了しました。今年1年の無火災、無災害を祈念致します。
- 奥田 雪雄君 青木稔さんから、短歌集をいただきました。有り難うございました。今後もピュアな心をつくり続けて下さい。私の心の濁りは隠せませんが。
- 角谷 信二君 1月13日(日)平成20年碧南市消防出初め式並びに第39回新春防火たこあげ大会が無事終わりました。
- 竹中 誠君 1月13日(日)に娘の成人式が無事に終わりました。

〈雑誌委員会〉青木 稔君

- ・ロータリーの友1月号⑮ページ歌壇入選歌
慈しむ手と眼差しと囁きと子ら診る医師のやさしかりけり
- ・中日歌壇入選歌 (平成19年10月7日 日曜日)
遠き日の浜の記憶は波打らの素足の裏に蘇り来ぬ

〈創立50周年記念実行委員会〉幹事 杉浦健次君

みんなで祝おう50周年・キャッチフレーズ

「式典は厳粛に 祝宴は盛大に華やかに」

創立50周年記念式典並びに祝宴日は平成20年9月27日(土)に決定、と創立50周年記念事業に関する日程のお手元資料のご案内

卓 話

「気のはなし」

株式会社ラビィ 代表取締役 澤田直子氏

皆さん、今日は。

私、ご縁がございまして、この度皆様と共に、碧南ロータリークラブの創立50周年記念という、誠に貴重な記念事業をご一緒にお手伝いさせて頂く事になっています。

今、皆様からの色々なお力を頂きながら、一生懸命知恵を絞りながら、その当日を迎えるまでの準備をしております。

こちらに今日の例会報告書を拝見させて頂きましても、今日の例会第2393回ということで、この例会を2393回も取り行われている凄まじい数であります。

この50年という年数を積み上げられているお力は、言葉で表現出来ない、皆様の思いと色々情熱が合わさった物と感じます。

今回の9月27日という日は、ちょうど伊勢湾台風の大被害にあったその日に創立されたという事で、せっかく準備されていた物が何も無くなってしまった状態の時からスタートで、特別な思いが皆様のお心の中にあるかと思えます。

私どもは、当時を知る事は出来ませんが、そのような中で創立されたという「熱き思い」を皆様方と味わえるような式典であったり、祝宴であったりというような思い出深い時間となりますように、コーディネートをお手伝いさせていただきますので、よろしくお願い致します。



その中で、大事な当時の思い出を「気」というテーマで、またがっていくんですけど、今日は残りの時間を通して「気」についてお話をさせていただきます。

気と申しましても、特別な気の力とか、不思議な気の世界という限られた人が使う気といわれるものではなく、私達人間、特に日本の中で、誰もが自然に無意識に使い、生活の中で溶け込んでいる気のお話です。

まず『気』という文字のルーツですが、象形文字で、水蒸気が昇るイメージを表現しています。ミミズが三匹、天に向かって立ち昇っていく、そのような字です。空気、水蒸気、雲気などを意味します。

中国の宋と呼ばれた時代に、儒学者の程伊川（ていいせん）という人が、宇宙万物の源になっている原資を『気』と言い出し、この『気』という文字を使いました。

この考え方が、ちょうど日本の江戸時代に入り、生きる上での人々の力となり、それはそれは大流行したとのことでございます。

現在、私たちが、生活のなかで、自然に何気なく使っている沢山の言葉があります。

「気持ち」、「元気」、「気分」、「気力」、「気品」、「気配」、「気運」、「気性」、「気立て」、「気転」、「気風」、「活気」など数え上げたらきりがないうち日常でごくごく自然に使いこなされています。

今日は、気分がいい。いやな気配がする。あの人は、気立てがいい。いやー、君は気転が利くね。好景気の気配感がある。など誰もがその意味を考えなくとも当たり前の様に理解しています。それだけ日本人にとっては、この『気』という字が長い歴史の中でしっかり染み付き、身につけているのです。

たしか、小説家の五木寛之氏が、気に関する書籍を出版され、それを英語で翻訳するときにとっても苦労されたというお話を伺ったことがあります。なんと翻訳したらよいのか、そしてたとえ翻訳しても、表現したい本当の真意が伝わらないということだったように思われます。それだけ、幅広く、深い意味でこの『気』という字を使い込んでいる日本のような国が少ないのだと思います。

私は、研修の仕事を21年させて頂いておりますが、マナーやクレームを考える上で、『気』という字を取り入れると、若い人達でもすんなり受け入れ、納得し、理解しやすいように思います。こちらが挨拶して、相手から挨拶が返ってこない、目も合わせず、暗い返事で返されると気が濁ってしまう。ぶつかってきたのに謝ってこない・・・と気がすまなくなる。さわやかに挨拶されると気が晴れる。クレーム対応でも、一番大事なことは、文句が溜まったお客様の気をどうしたらすっきり晴らしていただけるのか。気がすむのか。こう考えていくと、自分は何をしたらよいのかやるべきことがみえてきます。講演会の時でも、話をしている時に、聞いてくださる方々の中で、何人かの方がうなずいてくれたり、同調のリズムをとってくださるだけでどれだけ話しやすくなるか・・・話し手と聴き手の気のリズムが合うとでもいいでしょうか、聴き手の方々によって、なぜか話の出来や乗りが変わってきてしまうのが不思議なところです。新人の方々には、人と接し話をする時はジーっと黙って立っていないで、柔らかな表情で、うなずいたり、あいづちをうったりして相手と気がめぐりやすいように立ち振るうことをお勧めしています。こういう何気ないことが、人間関係では、実にとっても大切なことだと考えています。

コンサートやライブ、スポーツ観戦など、テレビやCDやDVDがあっても、わざわざ会場まで出かけて見に行ったり聴きに行ったりするのも、生でしか味わえない、もっと大きな気やエネルギーをもらいにいくようなところがあるように思います。

それだけ生の気の力というものがとても人間にとって必要で大切なものなんだと痛感します。

病気になっても、その人の気の持ちよう、不思議なことに病状が変わってしまうということは、私たちの身の回りで沢山ある話です。

活気のあるお店、気力溢れる会社・・・、『気』という字で人そのものも、お店も会社も、日本も、そして地球全体もみつめていくと見方がぶれない感じが致します。

ここにご紹介した話は、ごくごく気に関しての一部ではございますが、気というのは、長い日本の歴史の中で、ごくごく自然に私達の生活のなかで、これまでも、これからも確かに存在し、なくてはならないものであり、大切に考えていかなければならないものだと感じています。

碧南ロータリークラブの50周年は50年に一度であり、次の100周年の時は私もいるか分かりませんが、2度とないと言っていいほどの大事な記念事業は皆様のお一人、お一人の全ての喜びの気を集結させて、実りあるすばらしい時間となりますように気を合わせていくというテーマで、今回のお話しを終わらせて頂きます。短い時間でありましたが、それこそ気をこちらに向けて頂き話しやすい空間を創って頂きまして、本当にありがとうございました。今日はこれで終わらせて頂きます。

ありがとうございました。

次回例会案内 平成20年1月30日（水）

卓話「藤井達吉先生像制作にあたって」

**彫刻家、名古屋芸術大学教授 美術学部部長 神戸峰男氏
日展評議員**